

## 巻頭言

# 「RBSSは信頼の証、防犯設備士や 総合防犯設備士の更なる活躍への期待」

公益社団法人 日本防犯設備協会 常任理事  
オーテック電子株式会社 代表取締役社長

齋藤 太嘉志



執筆のご要請を頂き、昨今の自然災害や犯罪傾向等、あらためて振り返ってみました。

まず、自然災害にあっては、2024年1月1日能登半島を襲った能登半島地震、そして1年も経たない9月に発生した奥能登豪雨、多くの報道や記録映像から本当に痛ましいものであったことが痛感させられました。復旧、復興に向け今も尽力されている方々に敬意を表すと共に、一日も早く被害に遭われた全ての方が日常生活を取り戻されることを願うばかりです。また犯罪傾向にあっては、警察白書や犯罪白書等にも分かり易く掲載されていますが、誰もが脅威と感じているのは「匿名・流動型犯罪グループ」通称「トクリュウ」ではないでしょうか。昔は「こそ泥」が一般的であり、言葉の通り人の隙を見て留守宅等に忍び込み、こっそりと物を盗む、こそこそと泥棒を働くものでした。それが一変してしまいました。住民が居ても容赦なくガラスを叩き割って入り込み、強盗のみならず殺人まで行ってしまう。また、それらを実行した犯人がとて罪を犯すとは思えないごく普通の若者で、「SNS等で高額バイトの募集を見て応募した」とか、逮捕された際には「早く抜け出したかった」等の言葉にも衝撃を受けました。社会情勢は悪化傾向にあることは犯罪認知件数の増加からも伺えますが、併せて検挙数も増えていることは、その様な状況にあっても国を安定させるために奔走されている警察をはじめとした関係機関、警備を担う方々等の絶え間ない努力の結果に他なりません。ここで、自然災害や犯罪について、その発生状況を克明に記録する監視カメラシステムや、異常を捉える警備システム等について、その重要性が益々高まっているのは防犯設備の市場規模が拡大している状況を見ても分かります。監視カメラシステムは、災害の発生直後の状況や後に被害の減災に向けた活用、犯罪に対しても早期の検挙や抑止に貢献できていることは無論のことです。ここで大切なことは、それら機器やシステムが安定して稼

働し続けることにあります。いざという時にきちっと機能していなければ何の意味もありません。色々な製品が市場に出ていますが、何を選ぶべきか悩まれる方も多くなっている中「優良防犯機器」として認定されていることを示す「RBSS」マークは信頼の証であり、そのマークがあれば安心できるものです。また防犯設備士や総合防犯設備士は、専門的知識を有していることが分かり、その資格者に適切なアドバイスを頂ければ大変心強いものです。今後更に認知度も高まり、活躍の場が広がることになると想定されます。

ここで話は変わりますが、大阪・関西万博が4月13日に開幕しました。各パビリオンは、未来に向けた最新テクノロジーの紹介等色々と工夫がなされており大変見どころがあります。皆が気持ちよく来場し未来を安心して体感頂ける様に、安全対策としての会場警備も徹底されており、入口は空港さながらのX線装置や門型金属探知機によるチェック、会場内は監視カメラシステム、各パビリオンの警備システム、警備ロボットの導入、そして各社警備員による警備対応等、多くの企業、スタッフそして関係機関が連携し対応されています。当社も会場を囲む外周フェンスにセンサーを設置させて頂いていますが、各社の防犯設備士や総合防犯設備士の知識、そして皆の英知を結集することで、会場全体が「安全・安心」の中「快適・便利」に楽しんで頂ける空間として作り上げられていることは、日本企業のすばらしさも実証できており誇らしい限りです。

国内の警備市場に陰りは見えません。防犯機器やシステム等に対するニーズは益々増えるため、安全で信頼できる防犯設備等の普及は不可欠であり、協会の重要性が更に高まることとなります。引き続き犯罪の防止その他公共の安全と秩序の維持に貢献して行きたいと思います。